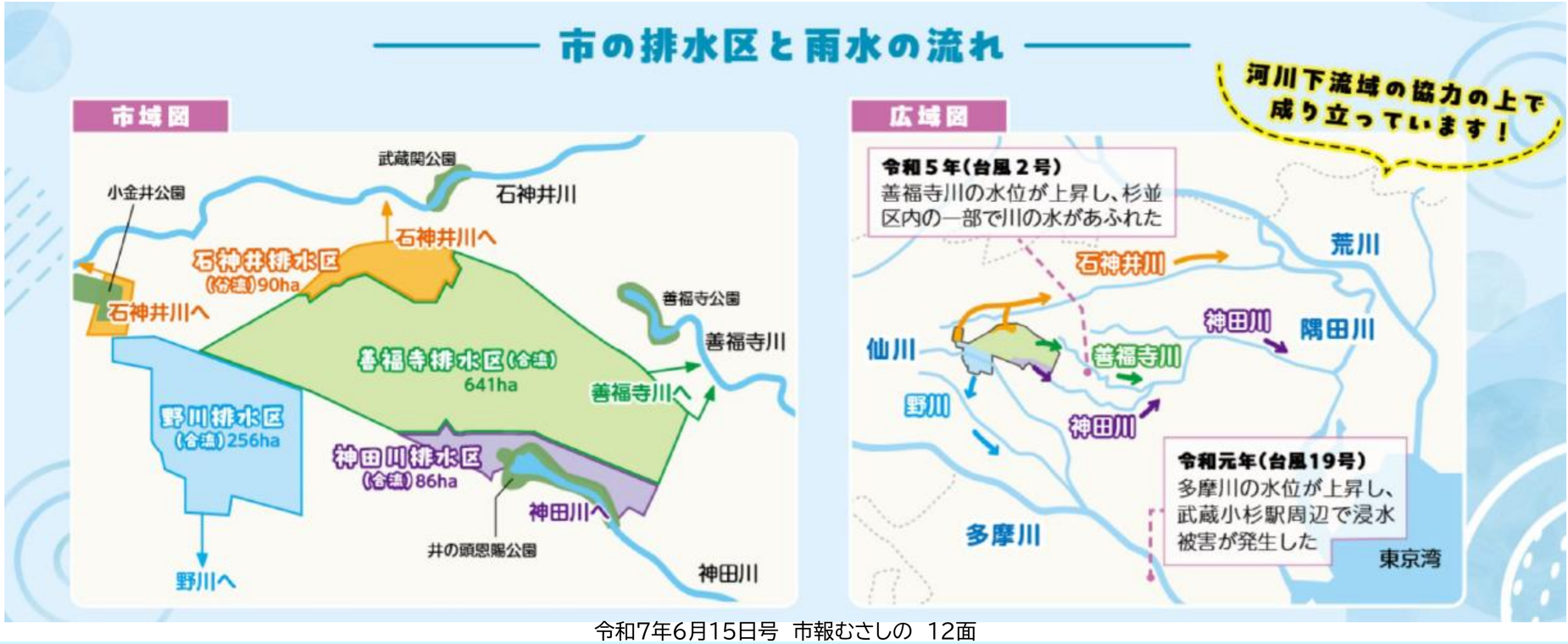
# 武蔵野市の雨水排水の現況と市民一人一人にできること

市内に大きな河川がない武蔵野市の雨水排水は、河川下流域の協力の上で成り立っているため、市民一人一人にできることについて、普及啓発しています。

## 雨水排水の現況

武蔵野市は、
4つの川へ排水

1）善福寺川
2）神田川
3）野川
4）石神井川



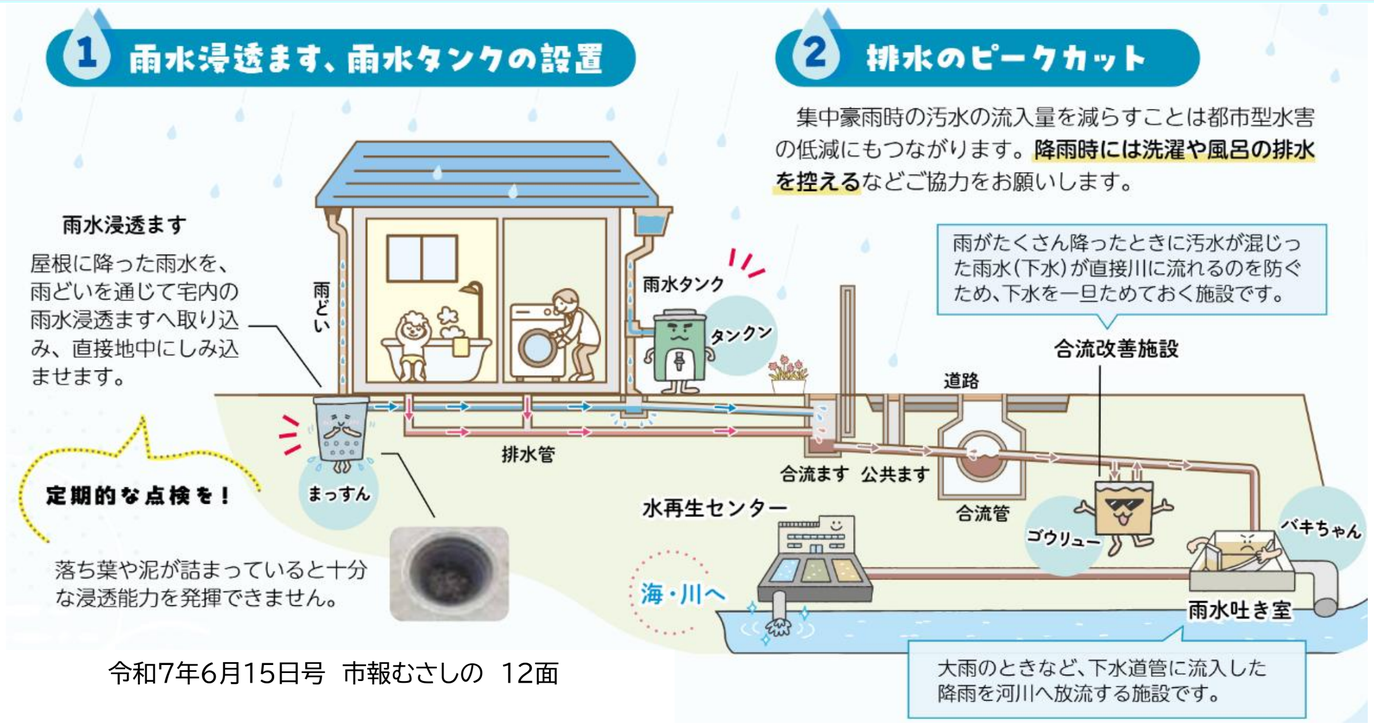

令和7年6月15日号　市報むさしの　12面

## 下水道管と河川の負荷を軽減するために、市民一人一人にできること

1）雨水浸透ます、雨水タンクの設置
- 新築は、条例で雨水浸透ます等を設置
- 既存住宅は、助成制度活用による設置
- 助成制度活用による雨水タンクの設置

※ 既存住宅とは、平成24年9月30日までに建築された住宅

2）降雨時に洗濯や風呂の排水を控えるなど、下水道満管時のピークカット




令和7年6月15日号　市報むさしの　12面

# 武蔵野市下水道課が取り組んできた雨水流出抑制（制度説明）

大雨時に下水道管に流入する雨水を減らし、下流域の自治体の方々のご負担を軽減するとともに地下水のかん養など健全な水循環を確保するため、雨水浸透施設等の設置を推進しています。

## 民間施設に対する設置助成制度の歴史

雨水浸透施設　要綱・条例　雨水タンク

雨水利活用条例・・・武蔵野市雨水の地下への浸透及び有効利用の推進に関する条例

**平成6(1994)年**
- 雨水浸透施設等の設置に対する助成事業開始

**平成8(1996)年**
- 雨水流出抑制施設設置要綱
  - 家を建てる際に設置するよう指導開始

**平成21(2009)年**
- 雨水タンクの設置に対する助成事業開始

**平成23(2011)年**
- 既存住宅への助成金額拡充
  - 平成24年以前に建てた家は、本人負担０円！

**平成24(2012)年**
- 雨水利活用条例
  - 家を建てる際に雨水浸透施設を設置するよう条例で指導開始

**平成25-30(2013-18)年**
- 公共施設への設置推進
  - 市民が目にする機会を増やすことが目的

**平成28(2016)年**
- 助成制度専門の職員を採用
  - 戸別訪問による積極的な制度PR

**平成30(2018)年**
- 助成割合の拡充
  - 助成額を１/２から３/４に設置費用も対象に！

**令和8(2026)年**
- 助成金の交付限度額を増額
  - ・設置費 1万円 ⇒1万4000円
  - ・小型タンク 3万円⇒4万円
  - ・中型タンク 5万円⇒6万円

## 現在の取り組み

〇雨水浸透施設（雨水浸透ます、雨水浸透トレンチ）助成金
⇒平成24年度以前に建てた家に設置する際は、基本的に全額市が負担
※ 新築住宅の場合は材料費のみ

〇雨水タンク
タンク本体価格・設置費用の3/4を市が負担
限度額
・150L未満のタンク　本体×3/4＋設置費×3/4（上限額1万4千円）
合計⇒4万円まで
・150L以上のタンク　本体×3/4＋設置費×3/4（上限額1万4千円）
合計⇒6万円まで

## 雨水利活用条例

家を建てる際に、雨水浸透ますの配置計画等を示す「雨水排水計画」の提出を義務付けるもの

目的：市内全域に雨水貯留・浸透施設を設置することや、
市民へ雨水が資源であることの意識変化を啓発するため

対象：〇建築物を新築、増築、改築または移転するとき
〇道路、公園、緑地、駐車場を新設、増設、改修または改良するとき

新築住宅における設置率は、ほぼ100％

# 武蔵野市下水道課が取り組んできた雨水流出抑制（主な実績）

大雨時に下水道管に流入する雨水を減らし、下流域の自治体の方々のご負担を軽減するとともに地下水のかん養など健全な水循環を確保するため、雨水浸透施設等の設置を行ってきました。

## 市立小・中学校の校庭

**校庭に埋められたこの施設はいったい何でしょうか？**



これは、学校の敷地内に降り注いだ雨水を一時的に貯めて、ゆっくり地中に浸透させるための施設です。

それではなぜ、このような施設が必要なのでしょうか。

今回の特集では、武蔵野市の下水道事業と水循環への取り組みについて紹介します。



平成25年
市立第一中学校校庭
施設設置工事から。

右の写真は地中への施設設置中の様子。
上は、土を戻して
整地した後の校庭。

▶答えは4ページに。

出展：季刊むさしのナンバー111　2015年夏号

## 浸水リスクの高い地区の市立保育園の園庭下

**浸水対策として雨水貯留施設を設置**

25mプール
約14杯分



雨水を一時的に貯留し、その後下水道に雨水を流します。



地盤が低く、集中豪雨による浸水被害が発生しやすい吉祥寺北町地区。北町保育園の建て替えに合わせて、浸水対策として雨水貯留施設を園庭地下に設置。容量4500 m³の地下施設に道路上にあふれた雨水を取り込むことで浸水被害の軽減を図ります。

■吉祥寺北町1丁目（北町保育園）

| | |
|---|---|
| 施設概要 | 容量：4500m³ |
| | 直径：19m |
| | 深さ：約34m |
| 総事業費 | 11億8920万円 |

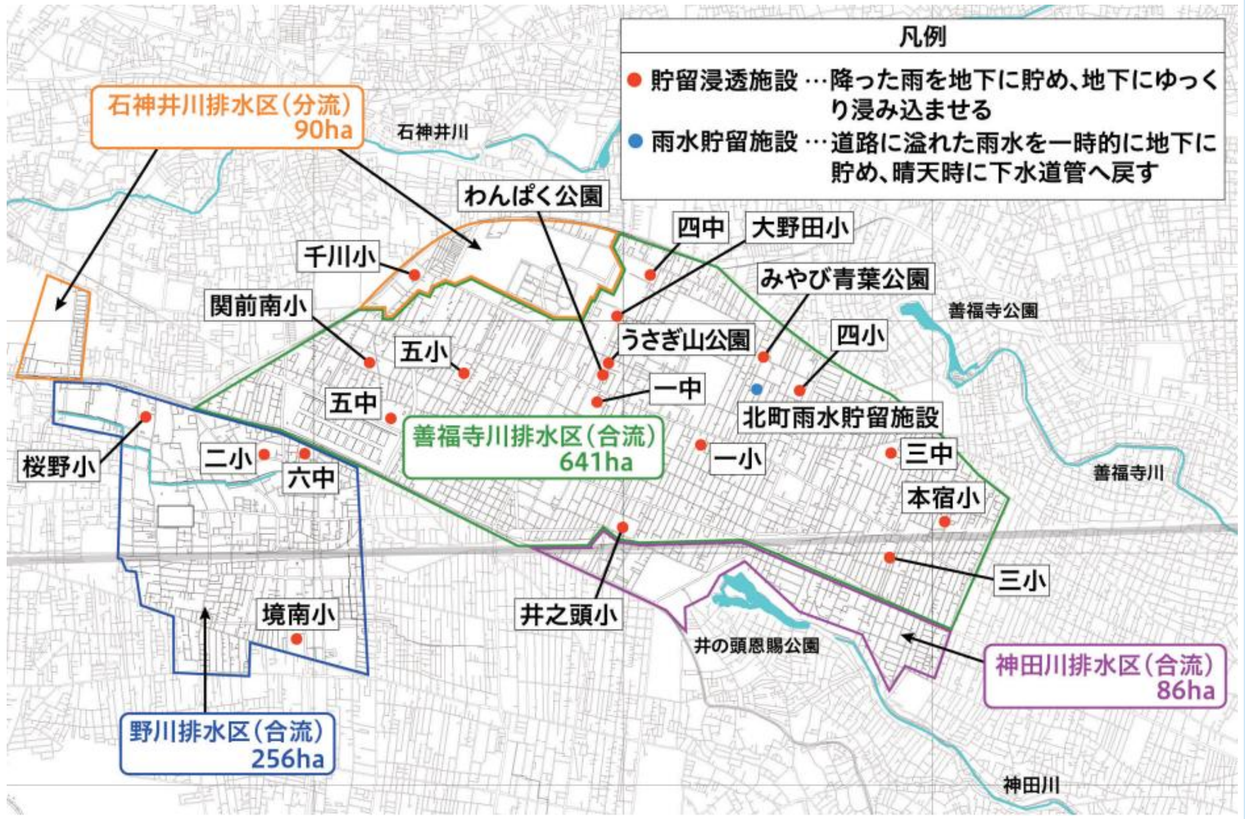
出展：季刊むさしのナンバー111　2015年夏号







## 雨水貯留・浸透施設の整備状況（令和８年10月時点）




出展：武蔵野市下水道総合計画2023

〇市内小・中学校の雨水貯留浸透施設　⇒　8,800㎥
〇市立保育園の園庭下（北町雨水貯留施設）　⇒　4,500㎥
〇市立公園の雨水貯留浸透施設　⇒　499㎥






# 武蔵野市下水道課の雨庭普及に関する研究（令和７年度）

グリーンインフラの一つである雨庭は、雨水を一時的に溜め、ゆるやかに地中の浸透させる機能を持ちます。下水道や河川に流れ込む雨水の量を減らす機能があるため、普及に向けた研究をしています。

## 武蔵野市の雨庭

所在地

**市立みやび青葉公園**
武蔵野市吉祥寺北町2丁目16番地



**歩ける雨庭！**
公園内の動線上でも支障がない。
野芝などの踏圧に強い植物を選定し植栽。

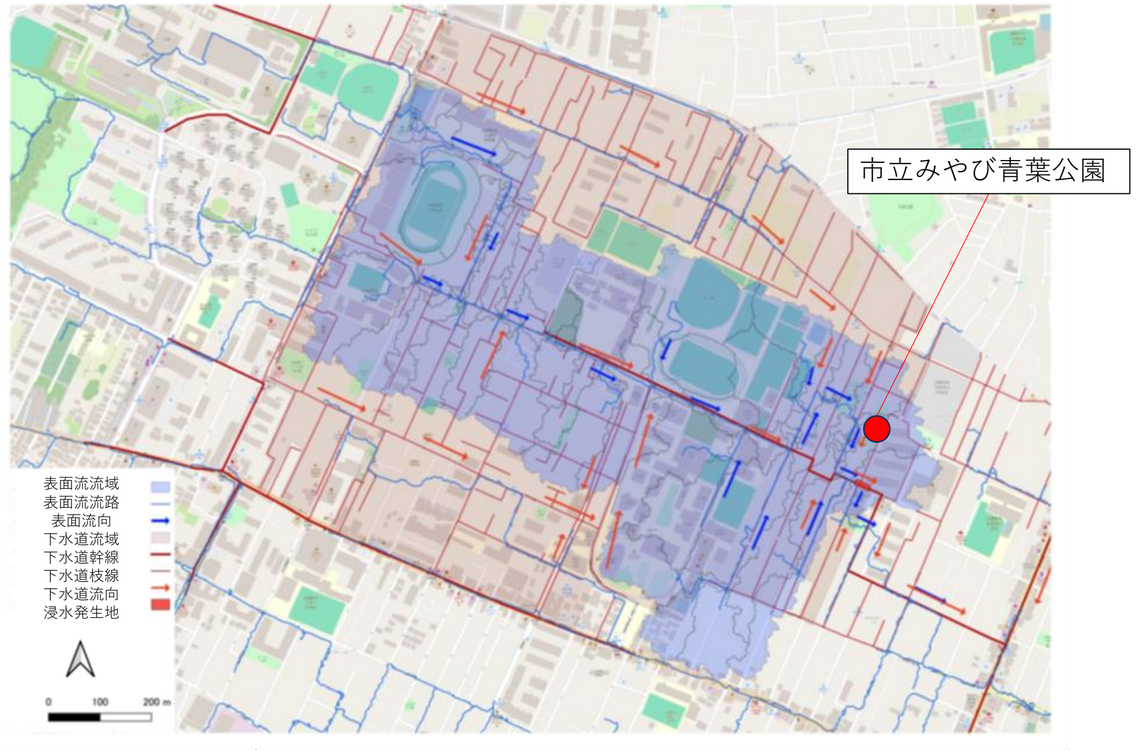


**窪地貯留とグリ石間空隙貯留のハイブリッド！**
窪地にすることで貯留量を確保。
植栽は武蔵野の在来種を植え、景観的にも生態系としても有用。

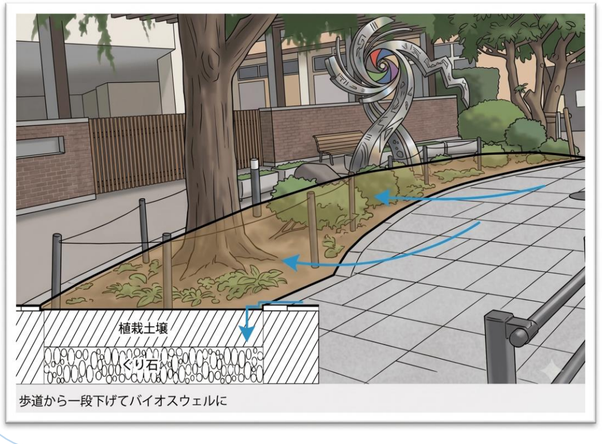
研究を経て…

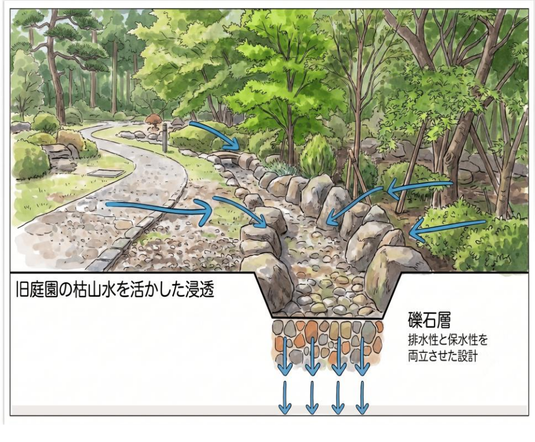
## 市内の表流水の分析による効果的な雨庭の配置検討

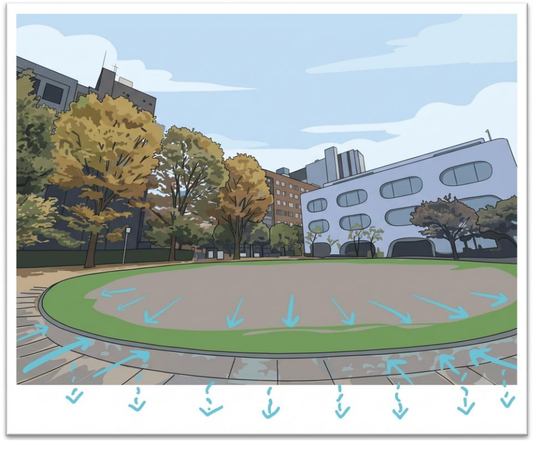
市内において浸水実績のある地域をモデルエリアとして選定し、地表面を流れる雨の流れを分析することで、浸水被害軽減を見込める効果的な雨庭の配置を検討・研究しました。



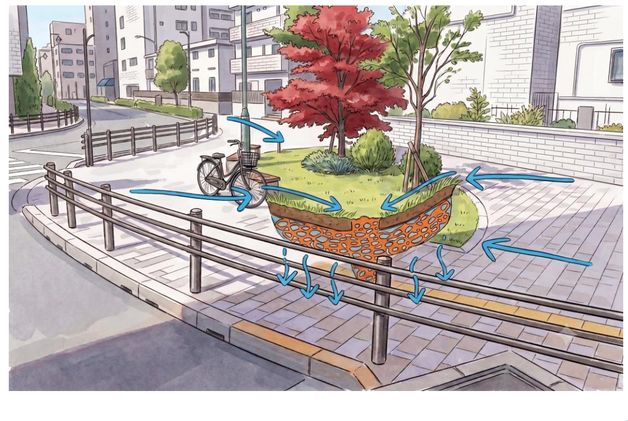

## 雨庭整備のイメージ図



※将来必ず整備するわけではありません。



# 武蔵野市下水道課が取り組む市民への普及啓発

親しみやすいキャラクターを用いて、下水道について知ってもらうための資料やグッズを作成し、市民への普及啓発を行っています。

## 下水道普及啓発資料・グッズ

### 工夫 1｜パンフレットで「下水道の仕組み等」を解説




### 工夫 2｜すごろくで「下水道の流れ」を体験




### 工夫 3｜親しみやすいキャラクター



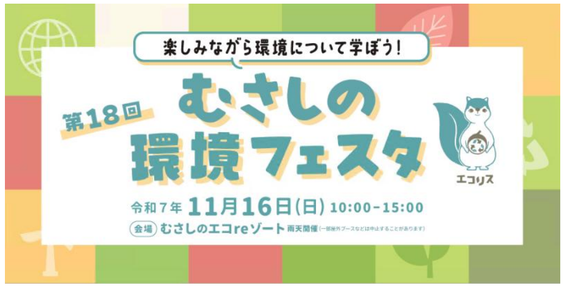

親しみやすいキャラクターが下水道の仕組みを案内。
配布用パンフレットやシールなどに使用し、
子どもも大人も一緒に学べるよう工夫しています。

↑詳しくはこちら

## イベント等での普及啓発（一例）

### ① むさしの環境フェスタへの出展

来場者にパンフレットとすごろくを用いて下水道の仕組みを案内






### ② 小学校への出前講座

小学生向けに下水道に関する出前講座を実施



### ③ 吉祥寺フコク生命ビジョンで自主制作啓発ムービーを放映

動画：令和６（2024）年８月21日　武蔵野市吉祥寺北町二丁目　時間最大降雨:44 ㎜/h

